多彩な特性で時代の要請に応えつづける銅

一般社団法人 日本銅センター　会長
ＤＯＷＡホールディングス株式会社　代表取締役社長
関口　明

35年前に鉱山会社（旧同和鉱業）に入社した。最初の任地は秋田県の鉱山事業所であった。私にとって、東北地方に足を踏み入れるのも初めてなら、〝坑内〟に入るのも初めての経験であった。そこでは、強面ながら実は気持ちの優しい男達が、気温35度、湿度１００％という劣悪な作業環境のなかで、文字通り汗みずくとなって働いていた。当時の水準では、相当に機械化の進んだ鉱山ではあったが、危険と隣り合わせのきつい仕事であることに変わりはなく、何度か悲惨な事故も目にした。

その北鹿黒鉱（ほくろくくろこう）鉱山（こうざん）は20余年前に閉山となったが、その後は海外からの輸入鉱石を主原料として今も製錬事業を続けている。原料購買を担当していた時期には、エスコンディダ、グラスベルグなど世界的に著名な大規模露天掘り銅鉱山を訪れる機会があった。モレンシー鉱山ではＳＸ－ＥＷ操業を見学させてもらった。また、カナダにおける銅鉱山開発への投融資を検討・研究して、実行する仕事にも携わった。

近年では、リサイクル製錬所の舵取りを経験することもできた（東北地方太平洋沖地震直後の非常に厳しい時期ではあったが…）。

いずれの経験も、資源を高品質な素材に仕上げて世の中に安定供給することの重要性と意義、困難さとやりがいを肌身で感じさせてくれた。

この10年余で銅ビジネスの世界地図は大きく様変わりした。これからも変わり続けるだろう。しかし、素材としての銅の優位性＝導電性・熱伝導性・可塑性などに優れ、リサイクルによる品質劣化が無い＝は、他の素材の追随を許すものでは無い。また、本邦企業はその優れた技術力を武器に、移ろいゆく銅市場に上手に適応して、存在意義を発揮し続けるものと信じている。

文明の曙の頃から人類社会の営みを支えてきた銅は、来るべき自動化・高度情報化社会においても、その輝きを保ち続けるであろう。そんな素敵な仕事に我々は就いているのだ。そういう自負を持てる仕事に関わっていられるのは、何と幸せなことだろう。

花岡・松峰鉱山地区全景（北鹿地域のひとつ）

銅 目次

2 カパーロマン 多彩な特性で時代の要請に応えつづける銅 関口　明
3 ルポルタージュ① ものづくりの町、荒川に息づく銅の伝統技術と新しい発想
6 ルポルタージュ② 山形県 銅町・鋳物町 鎌倉を超え、わが国2番目の巨大な銅製座仏を鋳造
8 カパーストラクチャー① 巨木の樹皮のように展望塔を覆う約５４００枚の銅板 ラコリーナ近江八幡
10 カパーストラクチャー② 銅管を建築意匠材に！「山」を彷彿させる寺院 松栄山仙行寺誕生
11 カパーワールド① しなやかな紙でありながら銅１００％画期的な銅繊維シートに注目あつまる
12 カパーワールド② ふわふわ、美味しいたこ焼きの秘密は銅にあり
13 ＣＵ ＳＴＡＲを追って プラスチック粉に銅粉をブレンド加工 銅の殺菌性能を最大限に発揮
14 銅センターニュース トピックス

No. 186